

# けたはずれの新聞記者

伊藤慶之助

△画家・春陽会会員▽

昭和三年十月、渋いコートに身を包んだ失意の佐伯米子が、祐三と愛児弥智子の二個の遺骨を抱いてフランスから北野丸で神戸に帰って来た。そして同年十一月五日、中津の光徳寺で佐伯祐三の本葬がいとなまれた。私は翌四年二月にフランスに出発したが、そんな色々のことが続いて絵もかけず、神戸に出かける用事が多かった。

当時、友人大塚銀次郎が毎日新聞神戸支局におり、平野零児、岩崎栄、平田外喜二郎など、けたはずれの愉快な大将がそろっているの、神戸に出ると足は自然に相生橋の毎日支局に向いてしまふ。この相生橋の古風な陸橋から石段を下の道路に下りた所に支局があった。当時新聞のニュースをさがせた刈屋沖潜水艦沈没事件があった。他社との取材の競合いになると、けたはずれの常識はなれの零児が出る人が多いので、彼をさがしたが見つからない。福原遊廓だろうと彼のなじみの妓楼に行くと、服と靴がぬいであるのに姿が見えない。またいつものくせだろうと附近の妓楼をあちこちさがすと、どてらを着たままで屋根をつたって他の妓楼に上り込んでいた。やっこのことで見つけたが、報道記者を乗せて現場に行くラ

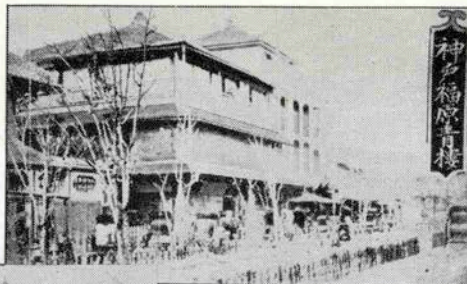
ンチが突堤を出る時刻がせまっているので、仕方なく妓楼のどてらの上に借りたマントを着て妓楼の焼印をおした下駄ばきでランチに乗り込んだ。

やれやれまずこれでひと安心と前を見ると神戸新聞の若い本田記者が伝書鳩を持っている。ランチに電話はなく、本社への通信に伝書鳩を使用されてはたまらない。神戸新聞にマンマとしてやられると考えた零児は、フラフラとよろめいた恰好をして、足で籠をけとばして鳩を逃がしてしまった。鳩を逃がされ功名をフイにした若い本田記者は、社に帰って上司に油をしばられ、ひどいめに逢った。零児はニタリとほくそ笑んだが、あとになつてすまない気がして自分に責任を感じ、毎日新聞本社で事情を話して本田記者を神戸新聞から毎日新聞社に引きとってもらった。零児に鳩を逃がされてペソをかけた若き本田記者は、毎日新聞に入社してから徐々に頭角をあらわし、終戦後、毎日新聞社長になられた本田親男その人である。零児の脱線ぶりは童心に近い無邪気さがあるので、人気があった。

当時神戸に高木弁護士という、これも変り種の人があった。弁護を依頼されている男が氣にくわ

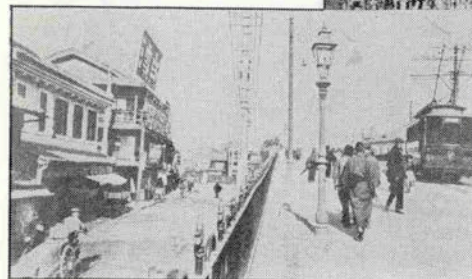
ないといって、法廷で彼を罵倒してさっさと帰ってしまったという逸話の持主である。

大晦日の夜、ことしは不景気だから門松だけは立派なでっかいやつを立てようと、除夜の鐘がなり始めてから湊川新開地の市に行つてでっかい門松を値切つて買った。弁護士と零児はしばらく重い門松を二人でかついで歩いたが、やりきれなくなり、ねをあげてタクシーを呼んで積み込んだ。花隈の花街のそばを走っている時、ふと思いついて寒いから茶でも飲んで行こうと行きつけの芸者



福原遊廓、木造三階建青楼の景観▶

明治初年、ようやく流行の二人乗り人力車が店頭にならべられているのが珍しく吉原をお手本にした仲之町の桜もまだ若木のである。



◀相生橋

明治の末、市電が通りはじめた相生橋（現在の神戸駅東、ガード付近）名物のガス灯、電灯が輝く橋が神戸の東西をつなぐ場所だった。

写真提供／荒尾親成

屋に立ち寄った。芸者屋では、元旦の未明に門松を持った「げん」の良のお客だと下へも置かない歓迎ぶり、二人は好い気分、調子にのって二日間居続けてしまった。三日の朝、でっかい門松をまたタクシーに乗せ、唇をぬぐってまじめな顔をして高木邸に帰ってきたが、高木夫人は全くあきれてものもいえない放心状態で二人を迎えた。

平野零児は、神戸支局から大阪本社に転勤になってまもなく、同じ記者の園部緑と二人で生駒新地で芸者を揚げて遊んだ。支払いになってまるで金が足りない。つけ馬をつけられてもどうせ家にも金がない。女将や仲居と首をひねって思案を重ねた末、女将のすすめで今日の聖天さんのお祭りをあて込んで、乞食をやつてかせようと相談一決した。そうときまれば善いそげ。早速乞食のイメージに合うメイキャップをやることになって、女将が率先して若い芸者達に手伝わせ、二人の顔に煤をぬり、頭髪にはピンツケに小鳥のエサをまぜたものをぬって、うすぎたない感じをもたせ、ボロ着物に古ざるを持たされて零児と園部は芸者達にはげまされ、参道にむしろを敷き、数メートル離れてザルを前に座つて頭を下げた。零児はにがみのきいたちよつとイカス顔をしているので、煤でいぶされていても、浮気心の水商売の女が多い聖天さんの信者達は園部よりもだんぜん零児のザルに金を入れる。思ったよりも喜捨が多くもらえて、二人の乞食の収入で芸者の花代を支払ってチップもはずんで……すっかり男をあげたよ……と得意になって話していた。

彼は馬場孤蝶の弟子で、死後、尾崎士郎が平野零児遺稿集を出版されている。

# 体育教官の情熱

高木 正雄

△神戸商科大学学長▽

本館南階段の二階から三階へが途中で行き詰りになっているが、現在の教職員や学生の中にその理由を知っている者はほとんどいないであろう。昭和五年新校舎の建築が進行していたある日、榑崎正雄助教授は伊藤校長から呼ばれ「榑崎君、体育館は来年度には必ず建てるから予算の関係上第一次の建築には遠慮してくれ給え」と半ば命令的に申し渡された。彼は非常に残念に思いながらも「止むを得ません」と力なく答え部屋を出かかったが、また引き返して「校長、一時間ばかり考えさせてくださいませんか」といい、引き下って小一時間思案した。そして「こんなことで今遠慮したら必ずや将来も予算の関係で建たないこととなるろう」と思ったので意を決して再び校長室にはいり「校長、お言葉を返すようですがどうしても体育館は今年度に建てて頂きたいです。もし建たないのなら私は辞めさせてもらいます」と強硬にねばった。そこで校長も仕方なく承知した。当時、日本有数の体育館ともてはやされた本学の体育館—今はみる影もないが—はかくして誕生し、その代りに三階と四階の特別教室がカットされ、従って二階から上への階段は不要となったのである。なお伊藤校長が榑崎助教授の熱意に兜を脱ぐに至ったのには既にその下地があった。というのは、ある日ドシャブリの雨の中を榑崎さんが裸になってひとりグラウンドに出て水の流れ道を作っている姿を校長が見て、彼の熱情にいたく感服していた一幕があったのである。榑崎正雄は東京高等師範在学中から中距離の

王者として大正から昭和初期にかけて活躍し、常にフアイトの固まりであった。昭和四年七月から十二年七月までの八年間、体育教官として勤務したが単なる体操教師ではなく、課外活動としてのスポーツを奨励し、得意の陸上競技はもとより野球、蹴球、ラグビー、バスケット、バレーから柔道、剣道に至るまで、あらゆる部活動をみて廻って、随分と学生を叱咤激励したものだ。彼は「スポーツは勝つことである」と断言してはばからなかった。当時は学生総数僅に四五〇名に過ぎなかったが、非常にスポーツが盛んでかつその成績も相当なものであった。往年名選手として知られ、今日もなお第一線で活躍している者も少なくはない。ラグビーの岡部誠一（そごう常任監査役、前神戸店長）、北野精一（日本触媒株式会社、浅見武（科研薬化工業株式会社、サッカーの大谷一二（東洋紡績株式会社）、野球の平野幸雄（今春北陸電力株式会社から北陸電気工事株式会社長に転出）、武本成行（川崎近海汽船株式会社）、柔道の杉本茂（元丸善石油株式会社現アブダビ石油取締役相談役）、剣道の外山正夫（川崎興産株式会社）、バスケットの秦志郎（神戸商工会議所専務理事）等々数え切れない。

垂水の新校舎が竣工して移ったのは完成年度の昭和六年四月であるが、風光明媚、眺望絶佳の丘の上にとびえるクリーム色の新学舎を中心とした学園には、若さと熱気がみなぎり意気正に天を衝くの観があった。そしてこのような新進気鋭の気魄を醸成するのに最も与って力が



伊藤校長の計らいにより、ロサンゼルスで開かれたオリンピックの視察にでかける榑崎助教  
授を見送る学生たち。(昭和7年6月21日、神戸港で) 円内が榑崎助教授

あったのは熱血漢榑崎正雄の不撓不屈の斗魂の鼓吹であつたといつても敢えて過言ではなからう。

昭和五年十一月三日の体育デーに當つて、校長盃のかかつた学年対抗競技会が催され、野球、蹴球、排球等九種目は各学年から出された選手によって勝敗が決められたが、最後の綱引だけは全校生徒が参加して行われることになっていた。

この時はまだ三学年はなく、一学年と二学年だけで各学年にABCの三クラスがあつた。まず最初に一年A組と二年A組が戦うことになった。太い長い綱が運動場の中央に横たえられ「用意、始め!!」の合図とともに「オー」「エス」の掛け声高く両方から力一杯ひっぱつた。双方互角に相競うこと数分、どうしても勝負がつか

ない。そこで両者が一気に勝負を決しようと最後のひとふんばりをやった。咄!! さしもの太い綱が中央からブツツと真二つに断ち切れてしまった。もちろん競いあう両軍力余つて総倒れとなり、ドーンと歓声をあげた。そこでこの切れた綱を結んで両者場所を交代してやり直したが、結果は同じで、双方の力が均衡して容易に勝負がつかない。そして数分、またもやこの綱が真中からブツツと切れてしまった。そこで勝負は預りということにし、後日新調の綱でやり直した時の感激を筆者は今なお忘れることができない。

昭和六年一月頃のことである。当時食堂を経営していた親爺さんはなかなかの元氣者で、威勢のよい声をはりあげて息子達や使用人達を指図して頑張つていた。その頃は和食だけで、うどん五錢、天丼十五錢、親子丼二十錢という今の若い人には想像もつかない値段であつた。ところがこの食堂の親爺さん、大した商売人で、学年始めの頃から比べると月日が経つにつれて段々と内容が質量ともに悪くなり、その上我慢がならないのは甚だ不衛生で食器類の洗滌が随分大さっぱで、時には目に余るものがあつた。そこで有志が相談の上、ポイコットをやつて業者を懲らしめることにした。大方の学生はポイコットが断行されるとは知らず、昼食時には食堂へやつて来た。ところが食堂の入口附近には数名の猛者がビケをはつていて近づくことを許さない。かくしてポイコットは完全に成功したのである。このポイコットの首謀者だったということで、筒井豊彦(現矢吹豊彦馬場大光商船社長)は特待生の第一候補であつたにも拘らずその選に洩れたということを、私は母校へ奉職してからある機会に恩師から聞かされた。

■なお、榑崎正雄先生は今なお豊彦として郷里福岡に在住、戦後長く福岡大学教授、初代体育学部長として幾多の有名選手を輩出、現在福岡県における体育運動界の重鎮として活躍しておられる。たまたま神戸へ出て来られる時には、往年の教え子がいつても集つて、昔に比べて盛んに気炎をあげるのが常である。

□ずいそう

# 長谷川三郎展を めぐつて

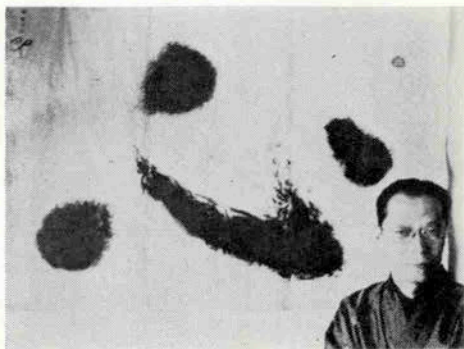
乾 由 明

△美術評論家△

長谷川三郎の没後二十年を記念する大がかりな展覧会が、九月はじめから三週間にわたって兵庫県立近代美術館で開かれた。この画家の名前は、美術の専門家や一部の愛好者のあいだではよく知られているが、一般にはあまりなじみがないように思われる。総合的な遺作展がこれまでほとんど開かれたことがなく、またまとまった画集が一度も出版されていないために、作品の眼に触れる機会がなかったからである。しかしそれ以上に、彼の画業が日本の画壇で正當に評価されず、商業的にもさほど問題にされなかったことが、大きな原因であろう。今回の展覧会の開催、そして母校の甲南学園を中心とする「画・論 長谷川三郎」の刊行によって、ようやく彼の仕事が見直される気運が高まってきたのは、当然のことながら、まこと

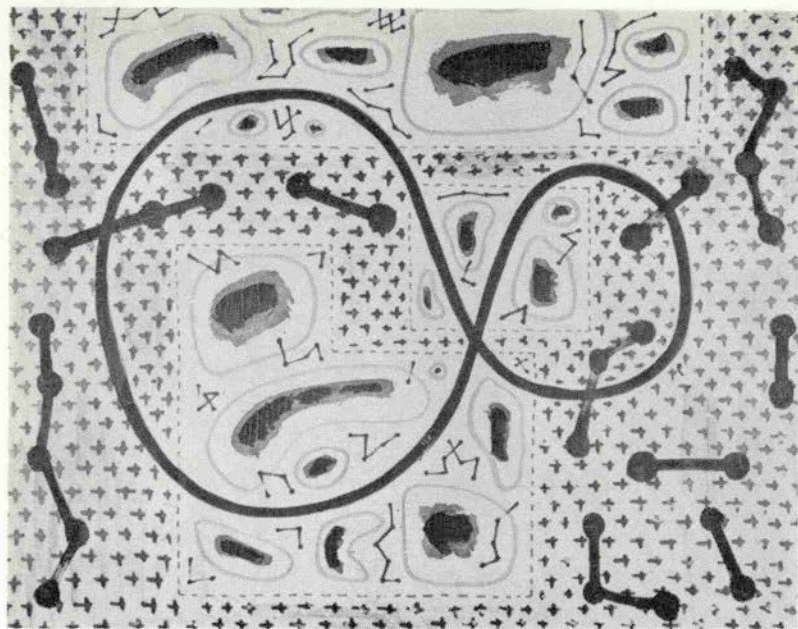
によるこばしいといわなければならない。

長谷川三郎は、戦前から戦後にかけての日本の近代絵画の展開において、逸することのできない大きな足跡をのこした画家である。昭和十年代初頭から、新時代洋画展や自由美術展を中心に清新な感覚にあふれた作品を発表して注目され、さらに当時としては画期的な抽象絵画、写真、カラージュの制作へとすすんで、戦前の前衛美術のもっとも尖鋭な旗手となった。同時に評論や批評にもさかんに健筆をふるい、また晩年は渡米して、東洋と西洋の美意識を統合せんとする、独自の美学と実作をつうじて、アメリカの美術界に多大の影響をあたえたのである。これほど豊かな知性と確固とした信念をもって、日本の美術の暗い谷間の時期を鮮烈に生き抜いた画家は、他に類がない。



長谷川三郎

ここ数年間、私は長谷川の画・論集の編集にたずさわっていたので、主要な作品はほとんど調査して知っていた。しかしあらためてそれらが一堂にあつめられた展覧会を見ると、またあらたな感銘をうけずにはいられなかった。なかでももっともつよく感じたのは、この画家が、生涯をつうじて何と正直に自分自身を作品の上に出し切っているかということであった。その仕事には、すこしの身がまえや策略もなく、率直に、大胆に、彼の素顔があらわれている。もちろんここには、外部か



蜂の軌跡

らのさまざまな影響や感化がみとめられるし、時期によって長谷川自身の制作の姿勢や思考も幾度か変転していることは、いうまでもない。しかしそれにもかかわらず、彼は一貫して自己に忠実に、ひたすら信ずるところをすすんだように思う。その仕事にアカデミズムの臭気がみじんもうかがわれないのは、そのためだろう。そしてまたそれゆえにこそ、個々の作品には未完成と思われるものがすくなくないにもかかわらず、生涯の仕事全体が、ずっしりした重みを感じさせるのである。

会場で会った菅井汲にこの印象を話したら、彼もわが意を得たりとばかりに、まったく同感だといっていた。

長谷川の仕事で、もっとも問題になるのは、昭和二十五、六年頃からはじまるモノクロームの版画や拓本の作品だろう。

禅や書などの東洋的美意識への共感、イサム・ノグチやアメリカの批評家グリリの感化などがその動機としてあげられているが、この突如として起った画風の変質には、それだけでは説明のつかない飛躍と深淵がある。

その仕事の意味をもうすこしつきつめて考えることが、たんに長谷川個人の問題ばかりでなく、芸術における東洋と西洋という大きなテーマの解決に、ひとつの手がかりをもたらすのではないかと思う。

●インタビュ

神戸へ来た千田是也さん(演出家)を訪ねて

# 芝居の妙味は役者だね

★ボーンとほったカツラが頭へコッーン

——神戸に初めていらっしやったのはいつ頃ですか。

千田 築地小劇場の第一回旅公演が宝塚だったんです。今から五十年前。その頃の宝塚中劇場で演ったんですがね。もって来たのはゲーリングの「海戦」や「牧場の花嫁」という一幕物でした。その頃です。

——じゃ、ずい分と昔の神戸もご存知ですね。

千田 そうなんです。神戸ってハイカラな町でね。当時築地はハイカラで売り出していたので、神戸はまるで故郷のような感じがして、やたらに西洋の古道具屋を捜して歩くのが楽しみでした。その頃の築地の旅の楽しい場所の一つでした。神戸は。

公演は宝塚で……。

千田 その頃、神戸では出来なかったし、大阪でも出来なかったですね。名古屋で演って、宝塚で演って帰ったんです。実はその頃のとっておきの話があるんだ(笑)——なんです。それは……。

千田 当時のカツラは全部、金で丸く出来てるのね。それで夢中になって「牧場の花嫁」を演ってたとき、相手役のカツラが客席に落っこったんだね。それを客がひろってボーンと舞台へほったら僕の頭へコッーンと当たったんだね(笑)。こっちはそれに気がつかないぐらいに熱演していたんだね。それが多分、宝塚の中劇場なんだな(笑)。

——それは傑作ですね(笑)。そうすると、神戸も長いし、新劇も長いんですね。

千田 そうですね。新劇も今年で五十三年ですからね。それ以後は外国へ行ったりして、築地の旅ではあんまり神戸へ来たことがないんですよ。

——じゃ、神戸は久しぶりなんですね。

千田 この前ここで初日を開けたのは福田義之の「新劇忠臣蔵」ですね。その後、私の演出したものは幾つか来ているんですが、こっちはも年だし、もう慣れちゃった芝居にはついて来ませんからね(笑)。

——その宝塚の頃は小山内薫先生とズツと一緒だったんですか。

千田 そうです。築地の最初の旅でしたからみんなついて来ましたね。

——その頃はメイクにしても何にしても、ハイカラというか、今までにないことをやっていたらっしやったんです。が、どういう形なんですか。

千田 映画が一番勉強になりましたね。演出の青山先生なんかは西洋の映画をジツと見ていて、女優がどういう倒れ方をするか、どういうキッスをしたか、そういうことの研究をしてそれを真似たんですね。小山内先生はモスクワ芸術座の「どん底」の絵葉書を持っからして、それをつなぎ合わせて行くと殆んど芝居が出来ちゃう。そこで、こういう風にあくびをしろ、とおっしゃるのでとにかくやってみて、あとで絵葉書を見るとちゃんとそう

いう風にあくびをしている(笑)。引き写しですね、ゼスチュアについては。

★「ルル」では女の原点を出したかった

——「ルル」はどんなきっかけで演出されたんですか。

千田 栗原小巻さんは十年近くうちの劇団にしながら、演出する機会がなくて、まあ、今度は演ろうというので小巻さんの勉強になるような、また、新局面が出るような作品をと思って選んだんですが。日本ではあまり演らないけれど、外国ではうるさい芝居でよく演ってるんですよ。

——初日はいかがでしたか。

千田 神戸文化ホールというのはいいですね。関西では一番いいのじゃないですか。ちようどいいぐらいの大

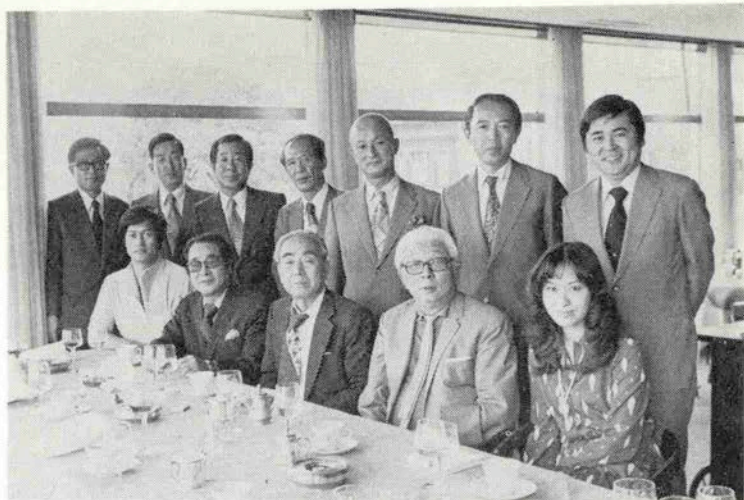
きさですし、舞台装置も最初からここを狙ってつくってましたから思った通りの舞台になったし、装置をしている安部真知さんも喜んでましたよ。イメージ通りだったってましたから。

お客つてのは労演に来るのじゃなく、俳優さんに来るのじゃなく、劇場に来るんですよ。そこに行ってみれば何かかかっている場所が確立しますとお客さんもそこを中心に来るし、ある意味でそれが文化の中心になるし、非常に大事ですよ、こういうものをつくるってことは。——小巻さんの新しい面をどういうところで発見なさいました。

千田 ご承知のように理智的な役を演る人でしよう。今度には本当に、女の、何ていうか、原点みたいなものをどれだけ出せるかと思っていたら案外うまく行ってるね。



神戸はハイカラな町だったので故郷のような感じがありましたね。



千田是也さんを囲んで。右手前が「ルル」でヒロインを演じた栗原小巻さん。

も早、彼女としてもこれまでに持っているものだけで売ることでも出来ないから、本当の芸を見せる時期になって来ていますし、女優としてはここで勝負の時期になりましたね、もう。パーと花開くような女優さんが劇団としても欲しいです。素質は十分ありますからね。

——新劇も五十年という歴史が出来てきて、今までになにかカラーというものをつくり上げたんですが、また、それが色々小さな劇団に分かれて行って根が張っているような感じですね。

千田 そうですね。まあ、五十年たった新劇というのはおかしな話で新しいはずはないですよ（笑）。昔ながらの癖で私なんかいつも新しいことをしてないと気が済

まないたちですが、それでも若い人がやることの方がもっと新しいので、段々とおさまるところへおさまって行くようですね（笑）。

——今度の芝居の面白いところは、今、新しがつて演っている大もとのところがみんな出ているわけですよ。ウーマンリブの原点のような感じもするし、あらゆる写真芝居を乗り越えたお芝居らしいお芝居の面白さもたくさんありますね。この程度の新しさは僕にも出来る（笑）。

——ところで先生のご趣味をお聞かせいただけませんか  
千田 絵を画いたりするのが好きで、衣裳のデザインなんかも自分で画いたりするんですね。自分の思いつきを絵で表わす方が手っとり速いですからね。デザインする人からいやがられるんですけどね（笑）。

——他にはあんまりないですね。酒は強いけど……（笑）。  
——ウイスキーですか……。

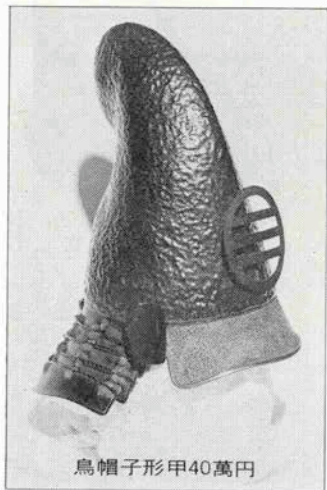
千田 何でもです。目下は焼酎。くま焼酎。お湯で割って飲むんです。毎晩、ダブルのウイスキーをコップに四はいぐらい飲むかな。女房とふたりで……（笑）。

——スゴイ！（笑）ところでお芝居の醍醐味は何ですか  
千田 何といっても役者ですね。自分も役者を演ったことのある演出家ですから、舞台で、人前で踊る面白さを十分知っているし。演出の仕事とは役者をハッスルさせることですね。思い通りハッスルしてくれたら楽しいんですけど、仲々思い通り行かないもんでね（笑）。

——これからはどんなことをおやりになりたいですか。  
女優さんをシゴクとか（笑）。

千田 そういう人たちがまだ大分あまってるんですよ。まだシゴかれずにいる人たちが（笑）。アングラの芝居なんか流行っちゃって、イブセンとかヴェデキントとか我々が最初に勉強をしたことをしないで来てしまった人たちがおりましてね。それが、アングラは今、凋落でしょう。それで何かこうガッチリとしたことをやりたいという人たちがいるのでそういう人たちの面倒を見るということが残っていますね。〈神戸文化ホールにて〉

# 刀剣 古美術



鳥帽子形甲40万円

鑑定・買入・刀剣・研磨その他工作  
一ヶ月仕上是非ご用命下さい。  
お支払いに便利なローンをご利用下さい。

刀 剣  
古 美 術

元町美術

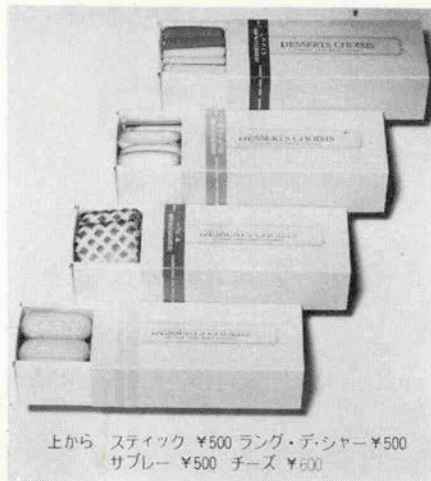
神戸市生田区元町通6丁目25番地

TEL 078-351-0081

## DESSERTS CHOISIS

デセール ショアジ..

デセールショアジはひとつひとつがすばらしい味を誇るクッキーです。4種類がそれぞれ新しく紙箱で誕生しました。



上から スティック ¥500 ラング・デ・シャヤ ¥500  
サブレ ¥500 チーズ ¥600

創業80周年

80



神戸屋月堂

神戸元町3丁目 ☎ (078) 321-5555

□ キャンペーン／トアロードを考える②

# 南北の流れを スムーズに

点から線、線から面への広がりを

今回は地元トアロードから加藤末一・コロンバン社長・トアロード中央商店街振興組合理事長、沢田俊夫・草津園社長、ファッション業界からサロン・デ・モード・中西の中西省伍氏、そして、北野のローズガーデンのオーナー若山晴洋氏に座談をお願いし、以下はそれをまとめたものである。

★人間らしいやすらぎと豊かさのあるトアロード

最近、ファッション都市づくりの重要なポイントとしてトアロードが再びクローズアップされて来た。地元商店のみならず一般の神戸を愛する人々のトアロードに対する期待が最近とみに高くなって来ている。

そういう状況のなかでこの八月初め、神戸商工会議所は神戸市に対して「シンボル・ロード（仮称）の建設等都市部の街並整備に関する要望書」を提出。そのなかで「北野町界隈の景観保全並びにトア・ロードの景観設計を早急に具体化されたい」として、「三宮・元町の都心部と山手地域を結ぶ中心軸であるトア・ロードは、シンボル・ロードに交差する南北の縦軸として、歩道、街路樹の整備等、景観設計をすみやかにすすめられるとともに、自動車の交通規制についても検討されたい」として

いる。なお、ここというシンボル・ロードとは、新開地、神戸駅前、元町通、三宮（花時計を起点として）を結ぶ緑のプロムナードのことである。

今や、トアロードのイメージアップのために何かをやる実行段階であることには大方の異論はないが、問題はその中味である。元町、三宮界隈、特に三宮周辺は今、急変貌しつつあるが、これらとのコントラストをどう考えて行くか、となるとそこには様々な問題がある。

まず、ファッション都市づくりという大きなプロジェクトのなかでのトアロードのもつ意義やウエイトはきわめて高いという点を押さえないといけない。市街地再開発の例として三宮の高層ビル化が一つの前例としてあるが、果してあれがファッション都市としての町づくりだといえるだろうか。神戸だけでなく全国どこにでも見られるような画一的なビルがどんどん出来て来ることに対する危惧は強い。

たとえば、東京あたりの人との話でもしばしば話題となるのは、神戸のトアロードは今、どうなっているのかということだ。それほど神戸のトアロードはある種の郷愁をもって神戸以外でも語られている。神戸でファッションに関係する者にとって、トアロードにある種のノス

●加藤 末一さん



●中西 省伍さん



●沢田 俊夫さん



●若山 晴洋さん



トアロードの南北の流れをいかにスムーズにするかが問題だ

タルジア、郷愁を感じるのとはもったもな事だ。神戸をファッション都市としてイメージするとき、トアロードが大きくクローズアップされて来るのは当然であろう。トアロードはアーケードのない通りである。青空を見ながらショッピングを楽しめる。外観だけでなく、内容にもふくらみがある。センスのいいブティックがある。中国人が家族でやっている美味しい中国料理店がある。古道具屋がある。アトリエがある。各店一軒一軒が昔ながらのポリシーをもってしっかりした商売や活動をやっている町である。個性的なウインドーがあり、心のこもった商品を提供する町である。

そのトアロードの根底には神戸らしさがなければいけない。神戸らしさとはモダンでユニークな個性の開花だといっていっても構わない。トアロードはユニークさを誇る神戸ファッションのメッカであって欲しいし、外人倶楽部から海岸通りまで、共通のイメージをもった何か欲しい。

世の中が騒々しくなり、息苦しくなりつつあるとき、

人間らしいやすらぎと豊かさが取り戻せる町になって欲しい、昔は外人が親しんだ町だな……と回想しながら歩けるショッピング・ストリートになって欲しい、との願いは市民一般のものであろう。ただ、既に建てしまったペンシルビルや公共施設などの無味乾燥な建物をどうするかは今後の問題だ。

#### ★タテに歩いて楽しい町並に

トアロードは南北につらなる坂の町である。ところが現状はどうであらうか。たとえば、東西に走る山手幹線、さらに高架をはさんだ東西の道路によって人の流れが分断されてしまっている。

山手幹線から上は西側には学校があり、住宅があり、東天閣のあたりから商店が始まる。山手幹線から上は住宅地域、下は商業地域と分かれているところにトアロードがタテにつながらない原因がある。たとえば、建物の建蔽率にしても上と下とは違う。今のままでは上の方は発展しにくいようになっている。行政は東西の発展しか考えていないのではないかとこの声は強い。

したがって現状ではそれぞれが点としてしか動いていない。それをせめて線にまでもって行きたいのだが、それにはやはり東西の交通規制をどうするかが大きな問題となろう。

トアロードにとって重要なのはタテの線で人々がスムーズに流れるということであるが、最近、北野界隈とのつながりがクローズアップされて来た。ここ二、三年の北野界隈の変化は目をみはるものがある。シャレたミニ・ショップが建ち並び、異人館がアクセントをつけ、ファッション都市神戸にふさわしい顔をもちつつある。最近北野トアロードという流れが次第に定着して来ている。北野の異人館通りで異人館を見たり、ミニ・ショップに立ち寄ったりしたあと、トアロードでお茶を飲んだり、買い物をしたりという人が急増しているとのことだ。北野界隈とトアロードがうまくジョイントして、

点から線へ、線から面へとふくらみをもつことが望ましい。タテに歩いて楽しい町並みになって欲しい。これは北野、トアロードに関係する誰もが異口同音にいうことである。神戸は本来、坂の町なので、坂道を途中でズタズタに切るのは基本的におかしいのである。

# ★地元のポリシーを明確に

さて、では、具体的にトアロードの新たな町づくりについてどのようなことが考えられているのだろうか。

まず歩道の問題。これには、画家の石阪春生氏から御影石を敷いたらどうかというプランが出ているが、トアロードを一つのものとしてイメージづけるためにも南北にわたっての歩道の統一整備は一つのポイントになる。また、北野界限とのつながりでは、それを示す標示板の設置から、さらに、歩道の色や素材を統一することで、それとハッキリ分るようにするというアイディアもある。

次に街路灯の設置。昭和十二、三年頃、トアロードにはシャレた六角形の街路灯があった。これは戦災で焼失してしまっただが、特徴のある、現在でも通る斬新なデザインで、磨りガラス張り、鉄色で塗られていて、当時の元町のスズラン灯よりはるかに明るかったという。これを再現したい、という声もある。いずれにせよ、神戸では現在のところ夜、ウインドーショッピングを楽しむことがたとえ家族づれでゆっくりと散策の出来るところがない。そのためにも街路灯は必要であり、さらに、商店も夜遅くまで営業するか、あるいは、閉店後もウインドーショッピングが出来るような工夫が欲しい。また、銀行などにもウインドーの使い方を一考して欲しい。

さらに街路樹の整備。現在、トアロードにはネムの木が植わっている。これはこれでユニークなのだが、ネムの木は枝葉が傘のように広がるので下から見ると山が見えなくなることがある。だから、トアロードではむしろまっすぐに伸びる木の方がふさわしいのではないかと、いう指摘もある。いずれにせよ、今はかなり歯抜けになっ

ているので早急に何とかしないといけないだろう。

ところで、かつては今の外人倶楽部の位置にトア・ホテルがあり、いわば、これがトアロードのシンボルになっていた。このトア・ホテルを図案化したシンボルマークが欲しいという声や、また、いっそ、トア・ホテルの塔をシンボライズしたタワーを外人倶楽部のなかに建てられないのかとの意見もある。以前には、外人倶楽部から見上げて誰の目にもつくような噴水をつくって、上から下へ側溝を利用して水を流そうという話もあったようだ。

さらに、道路脇にアクセントとして彫刻が欲しいとの声。現在、大丸の東側に元町の木曜会によってリスの彫刻がおかれているが、あの種のもので出来ないだろうかということだ。また、歩道に花壇をつくる。それもシンズンシーズンで花の変わるのが好ましい。

以上のように、既に実行の段階であることを認識した上で、現状の問題点、将来の具体的なプランが色々と提出されたわけだが、こうして地元の人たちがトアロードはこうあるべきなんだという基本姿勢を明確に打ち出し自分たちのポリシーをハッキリと行政へ示す必要があるだろう。そのために地元で署名運動を展開しようとの提案もあった。神戸市、神戸商工会議所、有識者、市民がトアロードに関心をもっている今、肝心の地元の意思表示がないのはおかしいというわけだ。

すでに見て来たように神戸商工会議所は北野界限を含めてトアロードの新しい町づくりに積極的な姿勢を示しているし、内外の声も高くなっている今、機は熟したと考えられる。

今後の地元としての取り組みは、単に地元のエゴだけで動くのではなくて、広く市民サイドで考え、さらに、他地域とのつながりをも十分考慮した上で、ファッション都市神戸のメイン・ロードとしての名に恥じない町づくりを目指すということに結論づけられよう。

## 経済ポケット ジャーナル

★市営地下鉄山手線工事が  
いよいよ着工

今年三月に営業を開始した市営地下鉄西神線（名谷—新長田間、全長五・七キロ）に続いて同山手線の工事が昭和五十六年完成を目前にして十月初めに着工。

これは、新長田駅から国鉄新神戸駅を結ぶ全長七・七キロで、途中に長田、上沢、湊川、大倉山、県庁前三宮、布引の七つの駅を建設。三宮駅ではポートアイランドと結ぶ新交通システムポートアイランド線と接続する。

「都市交通は都市景観を考慮した乗って楽しく、見て美しいものであるべき」（安好匠神戸市交通局長）との精神が今度の山手線にも取り入れられ、それぞれの駅のつくりにも趣向がこらされている。

★神戸の中堅企業100社を  
分析

このほど日本経済新聞社



から同神戸支社（中西平四郎支社長）編集による「神戸の中堅100社」という興味深い一冊が上梓された。



「神戸の中堅100社」

これは、兵庫県内に本拠を置く非上場の優良企業で日経、日経産業、日経流通の各新聞の取材活動の中から、業界における指導性、経営戦略の特異性などが、ひととき光るものをピックアップアップして編集したということで、全体を機械、金属、化学・薬品、食品、酒造、繊維、ファッション、貿易、流通、運輸、倉庫・建設、金融、情報、レジャーに分け、それぞれの企業を二頁にわたって紹介している。

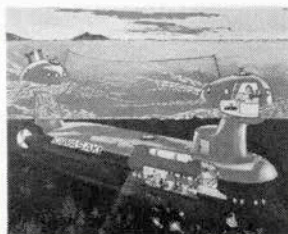
内容は設立年月日、事業所所在地、資本金、事業概要、代表者名、主要取引先、

従業員数、採用・初任給、主要取引銀行、最近三年の業績が表形式でまとめられ、さらに本文で成長の足跡、戦略、課題、社風、経営の基本方針などが簡潔に述べられている。

また、企業以外に神戸市民生協組、灘神戸生協組、兵庫県信用農業協組連合会の三団体も合わせて紹介されていて全国的に注目を浴びている神戸の代表的な中堅企業の実情を知るには極めて便利で、時宜にかなった好出版といえよう。千円。

★潜水観光船の開発に  
取り組む川崎重工

海中で遊ぶ魚群や海中植物の様を身近かで見たい——とは誰しも考えることであるが、川崎重工では水深五十メートル以浅で、海中生物がよく生息している海中



半潜水観光船

公園などでの広い地域にわたる海中を一般大衆に開放することを目的とする大型

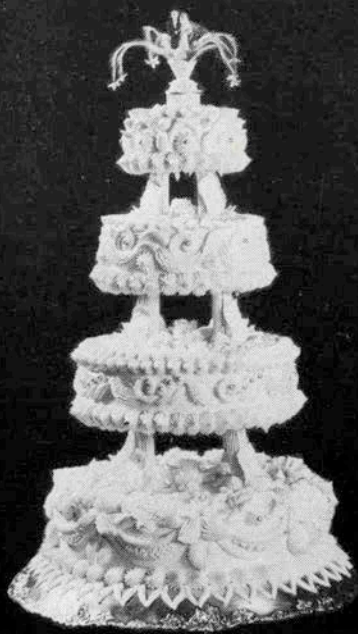
潜水観光船の開発を行い、基本設計を完了した。

同観光船はタイプA／潜水観光船、タイプB／昇降展望室付水中観光船、タイプC／曳航式昇降展望室付水中観光船、タイプD／半潜水観光船、タイプE／曳航式半潜水観光船の五タイプあり、経済性、環境条件により使い分けることができる。

★「こうべ経済」創刊

季刊誌「こうべ経済」が神戸市経済局商工課から創刊された。「神戸経済の動向を中心に、広く経済・経営問題をとりあげていきたい」（宮崎神戸市長の創刊あいさつ）との主旨で、創刊号では「産業と文化」を特集、米山俊直「神戸文化と経済」、三浦保「神戸をなめたらアカンでえ」をはじめ、時事的なものとして先日行われたパネルディスカッション「円高時代への対応策」の採録、その他、神戸市内経済動向分析結果や関係法令の動きなど、関係者のみでなく一般市民にも仲々興味深い内容となっており、「神戸経済を考え」る上での「糧」となっている。と商工課では意欲を見せている。A6版64頁。

# 純白無垢



ドイツ菓子 **Fachreim's**  
**ユーハイム**

本 店 三 宮 生 田 神 社 前 TEL (331) 1694  
三 宮 大 丸 前 TEL (331) 2101  
さ ん ち か 店 三 宮 地 下 街 スウィーツタウン内 TEL (391) 3539  
西 ド イ ツ 店 フランクフルトゲートハウス内 TEL (0611) 280262



きもの細貨

おんがら屋

神戸

本部・仕入部 神戸市東灘区青木五丁目一五〇一九 電話〇七八四五二二五二九〇(代)  
本 店 市街地改造により工事中 昭和五十二年未定  
さんちか店 神戸市生田区三宮町一丁目一 電話〇七八三三三二一七〇〇

銀座コア店 東京都中央区銀座五丁目八二〇 電話 〇三三三七三二五二九八(代)

渋谷東急店 東京都渋谷区道玄坂二丁目二四一 電話 〇三三三七三三三〇九(直)

東京

日本橋東急店 東京都中央区日本橋通一丁目九二 電話 〇三三二一〇五一(代)

池袋バルコ店 東京都豊島区南池袋二丁目二八二 電話 〇三三九八七〇五六一(直)

(四階きもの小路)



□ インタビュー

# 神戸っ子の人間模様を 風見鶏に。

杉山義法さん（放送作家）にきく

いよいよ10月1日より神戸を舞台としたNHKの朝の連続テレビ小説「風見鶏」がスタートする。神戸オリエンタルホテルに滞在して脚本を書きあげた作家の杉山義法さんを訪ね、神戸の印象やこぼれ話をインタビューしました。

★社会の波風をうける風見鶏が象徴的

—神戸には初めてですか。

杉山 3月に初めて来ましたが、何となく懐しくて初めて来たような気がしましたね。というのは僕の中

学の建物が異人館みたいでしてネ、ちょうど明治20年代の建物ですから。ハンター邸なんか入ると中学校と同じ匂いをするんですよ。

—お生まれはどちらですか。

杉山 新潟の新発田市です。神戸と同じ港町だから雰囲気似てるんです。新潟も幕末に開港した街の一つですから。あの頃のモダンイズムが全部神戸に残っているでしょ。懐しいんですよ。

—今回の「風見鶏」はどういった動機からですか。

杉山 僕は7年生まれなんですけど、大正・昭和の親達の世代を書きたいと思ったんです。やるならぜひ一代記物と思っていましたから。

—「松浦さん」という女主人公のモデルは？

杉山 全くのフィクションです。いろいろアイデアがあっただんですが、和歌山と神戸を結ぶものというところで国際結婚しかない！と思ったんです。それで新しいところを狙うなら……風見鶏がピンとききましたよ。女性の一代記なら、風の中で毅然と立ち、時代に左右されることなくいろんな社会の波風をうける姿が象徴的ですね。



風見鶏を見上げるぎん（新井春美）と正一（山本茂）

——日本女性の強さを表現したいということですか。

杉山 フロンティア精神があるんですね。戦後の混乱期に、積極的に外国のものをとり入れたら、外人と対等に面と向かってしゃべってたのは女性でした。男は旗をもつて戦いに行き、旗が折れるとおかあちゃんとかへ戻るんですよ。(笑) 戦争の後始末するのは女性ですね。現在の繁栄を支えているのは女性ってことかな。

——国際結婚をして、和歌山から神戸の街で生きぬいていくぎんはどんな感じですか。

杉山 ぎんの生涯は決してハッピーじゃなかったんですよ。戦争が終わって何年かたつてみて、振り返ると自分には何も残っていないんです。いろんな人の為にいろんなことをやってきたという満足感はあるでしょうがね。

★探るほどに面白い神戸っ子の人間像



北野ハウスの住人たち。左より綾乃、管理人・米蔵、正一、一色、ぎん、よし江

——今度の企画で神戸取材はいかがでしたか？

杉山 インド人と結婚したナンボーリアさんに会って話を聞いてきました。偶然、ナンボーリアさんも、英国人と結婚して亡くなられたエスター・ふく・ニュートンさんも和歌山出身なんですよ。和歌山っていうのは海に向かっていて土地だから解放的なのかなあ。

——漁師さんも多くて、どんな海に出て行ってますね杉山 それにあの頃日本に住んでた外人の吸覚っていうのはすごいですね。国際結婚っていうのはその社会情勢をもろにかぶるでしょう、だから面白いんです。

神戸はやはりいろんな人間模様が興味深いですね。ごちやごちやに混ざって……。るつぽの吹きだまりっていうか、東西南北のいろんな人が集まってるのかな。

——土着の人は少ないんですね。兵庫港の付近には土地っ子もいるんですか。

杉山 神戸弁っていうのは明るくてリズム感があるようですね。和歌山弁よりむしろ神戸弁っていうので松浦ぎんにはしゃべってもらおうかと思ってるんですが。

——神戸っ子っていうのは土地柄からして明るく、屈託がないですかね。

杉山 本当にそうですね。いろんなエピソードをもってたり、変わった生きざまの例が種々あるのに、本人達はそれほど特異な体験だと思っていなくていいですね。

——それじゃ、神戸を舞台ということで登場人物にも工夫があるんですか。

杉山 ええ、神戸らしさを表現するために、異人館風の北野ハウスっていうのをセッとしたんです。そこにいろんな人物を住ませて、例えば四国からバリへ勉強をしに行こうとした画家が目的を果たさず神戸に滞在しているとか、横浜で異人さんの子供を産んで、ご主人を神戸まで追っかけてきた婦人とか、ぎんを追って神戸にやってきた活弁士なんか——これは岸部シローが演るんですが——舶来長屋といったところですね。

賑やかそうですね。新開地では活弁が大変流行して



高船学校の酒保(売店)にぎん(新井春美)を訪ねたブルック(墓目良)

思って(笑)。今は書く方がいいですよ。

テレビの面白さはどんなところかしら。

杉山 芝居と映画の中間みたいな熱気があるんです。フィルムの世界と違って、スタジオドラマでは作家の息づかいが生でです。書き手の心理描写がっていうのが、特に連続ドラマなんかだと表われるようですね。無駄な時間っていうのがあるわけです。

今までにどんな作品があるのですか。

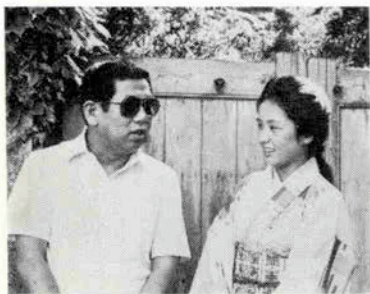
杉山 「天と地と」「春の坂道」「妻たちの二・二六事件」「赤ひげ」「ふりむくな鶴吉」などです。

ドキュメンタリータッチのものがお得意ですね。

杉山 そうですね。来年の一月からは井上ひさし作のソ連との合作映画「おろしや国酔夢談」の製作にかかる予定なんです。

「風見鶏」の脚本を書き上げられていかがですか。

杉山 風物的には異人館とか風見鶏がでてくるんですがあくまでも神戸カラーを人間模様というか人間像で出したいと思っています。こんな人間がいたんだな、というようなものを出したかったです。松浦ぎんの生き方を通して神戸の女性を表わしたい、朝のドラマなので暗いといけないんです。しかし悲しいときに明るく振舞うぎんをみていると、よけいに悲しさが出るんじゃないかという声もあります。神戸の女性の反応が楽しみです。



作家の杉山義法さんと主演の新井春美さん

# ■杉山 義法(放送作家)

昭和7年、新潟県新潟市生まれ。

日本大学芸術学部映画科卒。

今までの主な作品に「天と地と」、「春の坂道」、

「ふりむくな鶴吉」、「赤ひげ」などがある。

現在東京に在住。

たんですよ。

杉山 新開地周辺にはバラケツといわれていた人達が集まっていたんですね。面白い話を聞いたんです。メリケン波止場にトンプソン商会っていうのがあって、オーストラリアの外人がいつも着物の袖にキヤラメルを入れて花隈へ行き芸者衆に配ってたので「キヤラメルさん」と親しまれていたんですよ。(笑)日本舞踊を研究したりヘンな外人ですが、ユニークな人だったようですね。

## ★ぎんを通して爽やかな神戸の女性を

杉山さんは放送作家をして活躍してこられたのですか、どんなきっかけで？

杉山 もともと映画監督になりたかったんで、日大芸術学部の映画科を出たんですが、30年頃は不景気だね、助監督を諦めたんです。それじゃ、映画の敵になろうと